



TITLE:

幾つかの特大の海産軟体動物の貝殻

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 幾つかの特大の海産軟体動物の貝殻. かいなかま 2017, 51(1): 41-43

ISSUE DATE:

2017-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227294>

RIGHT:

発行元の許可を得て登録しています.

幾つかの特大の海産軟体動物の貝殻

久保田 信

Shin Kubota: Some giant marine molluscan shells

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

現生の軟体動物は10万種ほどが記載され、多様性に満ち満ちた色・模様・形の貝殻を持つ種が多いが、各々が特徴ある貝殻をどれほど最大限に成長させられるかは種毎に成体サイズの限界が定められていると推察される。卑近な一例を挙げると、インド-西太平洋に広く分布し、京都大学瀬戸臨海実験所付近（和歌山県白浜町）にも普通に生息するヤクシマダカラは、栄養条件により、まるで“蚤の夫婦”様の成体に育った記録がある（久保田, 2012）。しかし、ヤクシマダカラが、日本で二番目に大きなホシダカラ程の貝殻に成長した記録をこれまで聞いたことは無い。

軟体動物とは異なる刺胞動物に属するクラゲ類では、軟体部ゼラチン質の水分含有率が体重の90%を超えて大きさもかなり自在に変わりうるが、鉢クラゲ類のエチゼンクラゲが直径2 m・体重200 kgにも達するのに対し、ヒドロクラゲ類のカイヤドリヒドラクラゲの成熟クラゲの直径はたった1 mm程度（久保田, 2017a）と、両者で2000倍ものサイズ差が同じクラゲ類ながらも見られる。他の動物門でも類似の例が多々挙げられるであろう（例：北尾・久保田, 2009; Uchida et al., 2009等）。

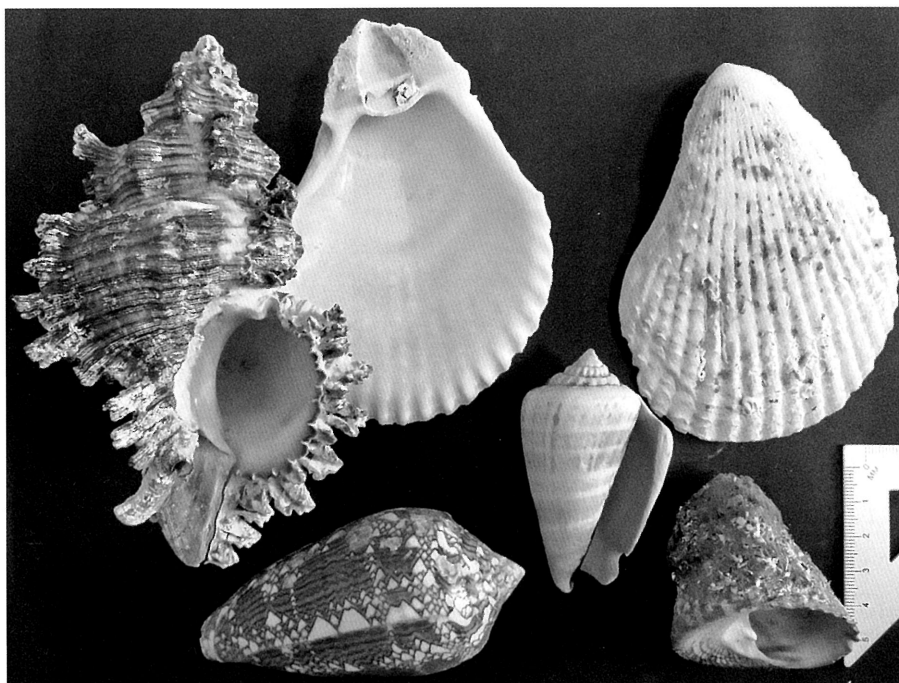
話を軟体動物に戻すと、例えば、オーストラリア・ケアンズ付近でツカツクリの一種が棲む無人島の海岸の水深数mの海底に生息するオオシャコは、巨大な貝殻を少し開き、光合成を営む軟体部も大きく色鮮やかに見せていた。また、南西諸島への調査研究航海途上で降り立った島々では（久保田, 2000）、巨大なコブシメの白い特大の甲が浜に累々と漂着していた。自身で生体を採集し観察・報告できた加計呂麻島産のエガイ（久保田, 1999）[本種はオオカリガネエガイ *Barbatia (Abarbatia) valata* Sowerby, 1833に相当?] や南日本各地のマツバガイ（久保田・鳥越, 2000; 築地新ほか, 2002）等の事象も思い起こされる（例：深見・久保田, 2015）。後鰓類では、特大のカラスキセワタガイを和歌山県白浜町の海岸で採集・報告できたが（久保田ほか, 1998）、その後、当該海域で発見できた全個体は普通サイズだった。

前置きが長くなったが、現生の海産の軟体動物5種（センジュガイモドキ、タガヤサンミナシ、ミノガイ、オオコシダカガンガラ、マガキガイ）の特大の貝殻を、最近、入手できたので、サイズはじめ他のデータを写真に添えて、今回紹介する（図）。それら全て、2017年4月15-16日に和歌山県白浜町で開催された「日本貝類学会平成29年度大会」時に並設された日本初の

「2017白浜ミニシェルショー」に、阪神貝類談話会の一員として参加時に購買にかけられていた中から、たまたま発見した(久保田, 2017b)。中にはラベルが付されていたものもあり、それらを吟味の上、各々の和名を踏襲したものには*を図に付した。また、それらの出所等について、阪神貝類談話会会員の久保田 J. ウィリアム・高田良二・高寺ゆかりの3氏から更なる情報が得られたので、それを [] 内に付記することができたので、3氏に、末筆ながらお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 深見 誠・久保田 信. 2015. 和歌山県産スガイの大型個体. くろしお (2015), 34: 47.
- 北尾芳樹; 久保田 信. 2009. 和歌山県で発見された巨大カメノテ (甲殻類). 南紀生物, 51 (2): 153.
- 久保田 信・大塚 攻・濱谷 巖. 1998. 和歌山県白浜町で採集されたカラスキセワタガイ (後鰓亜綱, 頭楯目, カノコキセワタガイ科) のまれにみる巨大個体. 南紀生物, 40 (1): 112-112
- 久保田 信. 1999. 鹿児島県加計呂麻島で発見された巨大な2個体のエガイ (二枚貝類, フネガイ科) の生貝. 南紀生物, 41 (2): 106.
- 久保田 信. 2000. 豊潮丸での南西諸島産ヒドロ虫類相の調査. くろしお, (19): 18-23.
- 久保田 信・鳥越 兼治. 2000. マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の大形個体. 南紀生物, 42 (2): 99-100.
- 久保田 信. 2011. 和歌山県白浜町産の特大のマガキガイ (軟体動物). くろしお, (32): 12.
- 久保田 信. 2012. 和歌山県白浜町産ヤクシマダカラ (腹足綱: タカラガイ科) の最大と最小の成貝. Molluscan Diversity, 3 (2): 97-98.
- 久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 "北浜" に打ち上がったクマノコガイの大型個体. 本覺寺杼貝, 74: 31-32.
- 久保田 信. 2017a. In "新・付着生物研究法", カイヤドリヒドラ類 (ヒドロ虫綱有鞘類) の分類の変遷と系統, pp.26-34, 口絵7-12, 恒星社厚生閣, 東京.
- 久保田 信. 2017b. 最近入手した特大の貝殻. 本覺寺杼貝, (81): 31-33.
- 築地新光子・築地新チサ・久保田 信. マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の日本最大の野生個体. 2002. 南紀生物, 44 (2): 106.
- Uchida, H., Tanase, H. & Kubota, S. 2009. An extraordinarily large specimen of the polychaete worm *Eunice aphroditois* (Pallas) (Order Eunicia) from Shirahama, Wakayama, central Japan. Kuroshio Biosphere, 5: 9-15.



紹介した現生の特大貝殻.

左上：センジュガイモドキ＊ 殻長133mm, 殻幅76mm, 和歌山県南部堺沖水深30m [高田良二採集(ヤドカリ入)].

左下：タガヤサンミナシ＊ 殻長94.5mm, 殻幅45mm, 和歌山県南部堺沖, 1989年12月採集.

右上：ミノガイ 殻長82mm, 殻高109mm [インドネシア産(ハルマヘラあるいはスラウェシ島?)].

右下：オオコシダカガンガラ＊ 殻長47mm, 殻幅48mm, 長崎県茂木海岸.

中央：マガキガイ 殻長70mm, 殻幅38mm (久保田, 2011 参照).